

2021.10.03. 神が最終決定権を握っておられる

ヘブル人への手紙 11 章 20 節

JD ファラグ牧師

さて、おはようございます。日曜日の朝の第二礼拝による。礼拝は二つあり、第一礼拝は毎週行っている「聖書預言・アップデート」です。第二礼拝は、聖書を章ごと、節ごとに、一つ一つ読み進めていく説教です。第二礼拝は、聖書を章ごと、節ごとに、一つ一つ読み進めていく説教です。私たちは今、素晴らしい書「ヘブル人への手紙」に入っています。そして今日の箇所は、第 11 章です。20 節から始め、20 節の最後までやり遂げます。今日は一節だけです。その理由は、まもなくお分かりいただけると思います。始める前にお知らせしたいのですが、次の二週間、私は、お休みをいただくことになりました。来週の日曜日から私の代わりに、私のアシスタントの、マック牧師に代役を務めてもらうことになりました。彼には次の日曜日の 10 日から、木曜日の 14 日、次の日曜日の 17 日、そして、その次の木曜日の 21 日を担当してもらいます。主の御旨であれば、私は、10 月 24 日の日曜日から再び説教壇に立ちます。私はどこにも行かないのですが、主の御座の前に出て、ひれ伏そうと考えてます。これが、この二週間の目的です。私は自分を整えて、今起こっているすべてのことに関して主に御心を尋ねる、一人の時間を過ごすつもりです。判らないことが多すぎるのです。判らないときは、わかる方のもとへ行くべきです。そのようにしようと思ってます。私はただ主に求め、起こっているすべてのことに関して、主と語り合う時間を過ごすつもりです。私は謙虚になって、へりくだって祈りを求めた使徒パウロのように、私も自分を謙虚にして、求めます。この間、私のために、特別に祈っていただきたいと思います。私にとって大きな意味があります。多くの方が祈ってくださっていることを知っています。そのことにとても感謝しています。私にとってそれがどれほど大切なことか、あなたにはわからないでしょう。ですから、前もって感謝しています。では、始めましょう。ここにいらっしゃる方で、可能な方はご起立ください。ご無理な方は座ったままで結構です。私が今日の節を全部読みますので、ついてきてください。ヘブル人への手紙第 11 章、20 節 です。聖霊の靈感を受けたヘブル人への手紙の著者は書いています。

**ヘブル人への手紙第 11 章、20 節**

**信仰によって、イサクはやがて起こることについてヤコブとエサウを祝福しました。**

祈りましょう。もしよろしければご一緒にどうぞ。私たちの理解に、神の祝福があることを祈りましょう。

愛する天の父よ。どうか、私たちの心を落ち着かせ、思いを静め、あなたと、あなたの御言葉に、私たちの思いを向けさせて下さい。それは、あなたが今日、御言葉の中で私たちのために用意してくださったものです。主よ、私たちはしもべとして、あなたの前に姿勢を正したいのです。ああ、あなたが必要です。主よ、私たちはあなたを必要としています。私たちは飢えています。渴いています。イエス様、あなただけが、その飢え渴きを満たすことができるお方であると知ってます。どうか、満たして下さい。私たちはあなたに求めています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

着席ください。ありがとうございます。今日は、私たちの人生のあらゆる状況において、常に神が最終決定権を握っておられることについて、話したいと思います。特にこんにち、私たちが直面しているこの世界的な危機に関してです。ある人が的確に言ったように、神はすべてを支配し、しかも、すべての支配を超えるお方です。それが、今日ここで見るものです。ヘブル人への手紙の著者は、信仰によって、ヤコブとエサウを祝福したイサクに、私たちの注意を向けようとしています。

「待って下さい、イサクが祝福を与えたのは…」そのことについて話します。

「ちょっと待ってください。イサクは二人を祝福したのですか？」そうです。これから起こることについて。「どうやって？何を？」それは、神が最終決定を下したのです。イサクが、エサウだと思ってヤコブに祝福を宣言したとき、神は、イサクの決定をくつがえされたのです。ヘブル人への手紙 11 章の「信仰の殿堂」と呼んでいる箇所、イサクが言及されている唯一の理由は、神が最終決定権を持ち、イサクの思いを覆えされたからだだと思います。このことについては後で詳しくお話しますが、私はイサクを、本当にありがたく思っています。というのも、彼はある意味真ん中っ子のようなものだからです。いつもアブラハム、イサク、ヤコブの順で、軽く扱われているのです。ちなみに、イサクについての記述は一節しかありません。先週、アブラハムの話をしたときには数節がありましたが、イサクはたった一節、「信仰によってイサクは…」だけです。信仰によって彼が行ったことの中で、神は確かにイサクを寛大に扱われてます。イサクが、信仰によって、ヤコブと”エサウ”を祝福したのは、神が彼を覆して支配されたからであり、結局、今日の箇所にイサクが記されているのはそのためです。あなたが何をしようとも、神の最終計画を阻止することはできません。このことをあなたの励みにしてください。いくらやっても、あなたにはできません。ところで、それはどちらにも当てはまります。「聖書預言・アップデート」で話しましたが、人間の邪悪な計画も、最終的には勝つことはできません。なぜなら、最終的に、神が最終決定をされるからです。もしよろしければ、このことをもっと詳しく説明したいと思います。それによって、イサクが最後に信仰によってそのようにしたのは、どうしてなのか、さらには、なぜなのかを説明することができます。しかし、おそらく今日ここにいる私たちにとってもっと重要なことは、これが今の私たちの生活にどのように適用できるかということです。そのためには、まず創世記の記述を読み直す必要があるでしょう。私たちの理解を深めるために、どのようにしてこんな事態になったのか、語りたい詳細がたくさんあります。まず、リベカが二卵性双生児を妊娠し、ヤコブとエサウという二人の息子に関し、神が彼女に与えられた預言の言葉から始めます。それでは創世記 25 章 21 節から読んでいきましょう。

## 創世記 25 章

**21 イサクは、自分の妻のために主に祈った。彼女が不妊の女だったからである。主は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。**

**22 子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は」と言った。そして、主のみこころを求めに出て行った。**

そうすることは、常に正しいことです。物事がうまくいかない時は。ここで、何かがおかしいようです。主に尋ねてみようとする、正しい行動ですね。そして 23 節。

**23 すると主は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える。」**

**24 月日が満ちて出産の時になった。すると見よ、双子が胎内にいた。**

**25 最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それで、彼らはその子をエサウと名づけた。**

**26 その後で弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで、その子はヤコブと名づけられた。(Ya'akov(ヤコブ)、”かかとをつかむ者”、基本的にはそういう意味です。)** イサクは、彼らを生んだとき、六十歳であった。

**27 この子どもたちは成長した。エサウは巧みな狩人、野の人であったが、ヤコブは（笑ってしまって申し訳ありませんが）穏やかな人で、天幕に住んでいた。**

何とも対照的です。どんな感じかお分かりですね、親の皆さん。あなたは自分の子ども達を見て、どうしてこんなに違うのか、と思うでしょう。そしてこれは二卵性双生児で、正反対の性格をしています。エサウは無骨な男で、ハンター です。そしてヤコブはというと、なんというか、お母さんと一緒に料理番組を見るのが好きだったみたいですね。申し訳ありません。そしてイサクは、28 節、…ここから問題が始まったのが分かります。

28 イサクはエサウを愛していた。(気に入っていた) 獵の獲物を好んでいたからである。しかし、リベカはヤコブを愛していた。

29 さて、ヤコブが煮物を煮ていると、エサウが野から帰って来た。彼は疲れきっていた。

30 エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いのを、そこの赤い物を食べさせてくれ。疲れきっているのだ。」それで、彼の名はエドムと呼ばれた。

ちなみにエドムとは現代のヨルダンのことで、エドム人として知られています。

31 するとヤコブは、「今すぐ私に、あなたの長子の権利を売ってください」と言った。

エサウが長男だったことを覚えておいてください。一番最初に生まれたからこそ、長子の権利を得ることができる息子だったのですところで、ヤコブは、「いや、僕が長男だ」と言って、エサウのかかとをつかんで引き戻そうとしたのではなかったでしょうか。つまり、胎内にいた時点で、すでに問題があったと言うことです。言うてみただけです。厳密には、エサウが長子の権利を持っているのです。しかし私たちは、リベカとイサクに与えられた、二つの国、二人の息子、二つの民族、一方が他方より強く、兄が弟に仕えるようになるという預言を覚えています。しかしここでは、年長者の、長子の権利を持つエサウが登場します。そしてヤコブは、胎内で奪おうとして出来なかった、その長子の権利を手に入れる好機を得るのです。

33 するとヤコブは「今すぐ、私に誓ってください」と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼は、自分の長子の権利をヤコブに売った。

34 ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり飲んだりして、立ち去った。

これだけは言うておきます。これは、私にとっては良い取引ではありません。そして、こんなことが書かれています。とても興味深いですね。

34…こうしてエサウは長子の権利を侮った。

なるほど、それなら納得です。エサウにとってそれは価値のないものであり、エサウはそれを軽視し、低く評価をしていました。それが、彼がこのようなことをした理由です。さて、この時点で、二人の息子に関する神の預言のことばが成就する上で、すべてが神の計画通りに進んでいることを理解しなければなりません。その地の文化では、こんにちもそうですが、長男は長子の権利を受け継ぐ者です。しかし、先ほど読んだように、エサウはそれを侮り、売ってしまったのです。さて、このことは次に出てくるのですが、年老いて目が見えなくなったイサクが、エサウだと思って、ヤコブに長子の権利の祝福を与えた時のことです。27 章を取りあげます。18 節からです。

創世記 27 章

18 ヤコブは父のところに行き…

さて、心に留めておいてほしいのですが、イサクはエサウに、「息子よ、時が来た」と言っていたのです。

「私は今、あなたに祝福を与えなければならない。だから、狩りに出て、私の好きな獲物を持ってきてくれないか。そうすれば、お前に長子の権利の祝福を与えよう。」というわけで、エサウは出発します。で

も母親は、その会話を聞いていて、「早く、ヤコブ、こっちに来なさい。」「その料理番組は後で見ましょう。」一笑「私たちは…」すみません。分かっています、それが…「問題が起こったわ。兄が、あなたの長子の権利を手に入れようとしてるわ。だから鹿肉(獲物)を仕込みます。そもそも、エサウに作り方を教えたのは私なんだから。父好みの味の料理を作るから、あなたがエサウがいない間に行って、あなたが長子の権利と祝福を手に入れるのよ。」しかし、ヤコブが言います。「お母さん、エサウは毛深いけど僕はそうじゃないから問題です。」エサウは 12 歳くらいで、もう、ヒゲを生やしてたのでしょうか。私は髭が生えようになるまでに、19 歳までかかりました。つまり、エサウは毛深かったんです。母は、「心配しないで、私が解決してあげるわ。」「この動物の皮を使って、お兄ちゃんの匂いがするように毛をかぶせてあげよう。」「兄と同じ匂いにしないといけないの?」「ええ、お兄ちゃんのような匂いがして、お兄ちゃんのように感じるでしょうが、お兄ちゃんのようには見えないわ。でも、お兄ちゃんのように見える必要はないの。お父さんには、どうせ見えないのですから。」「いいわね?」取引成立。O.K。

18 ヤコブは父のところに行き、『お父さん』と言った。イサクは「おお。おまえはだれかね、わが子よ」と尋ねた。

19 ヤコブは父に「長男のエサウです。私はお父さんが言われたとおりにしました。どうぞ、起きて座り、私の獲物を召し上がってください。そうして、自ら私を祝福してください」

20 イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね、わが子よ。」彼は答えた。「あなたの神、主が私のために、そうしてくださったのです。」

すごい！　すごいじゃないですか。スムーズですよ。嘘をついているとき、それがどんなものかが分かりますよね？　嘘をついているので、嘘をつき続けなければなりません。あなたは今や、引くに引けないのです。また、その嘘が何であったかを覚えておくために、記憶力が良くなければなりません。再度質問されたとき、その嘘をつき通すようにです。彼は嘘をついていますが、それを霊的な言葉で表現しているのが興味深いと思いませんか？「それは、主が私のために....」わあ...

21 そこでイサクはヤコブに言った。(イサクは納得していなく、疑問に思っています。)'近くに寄ってくれ。わが子よ。おまえが本当にわが子エサウなのかどうか、私はおまえにさわって(感じて)みたい。

22 ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。(これを注意して聞いてください)声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。

23 ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。それでイサクは彼を祝福しようとして、

ここで止まってください。一読しただけではわかりませんが、彼は聞いた声ではなく、触れることによって、この決断をしています。ここでちょっと待ってください。これはとても重要なことで、私が何を話そうとしているのか分かると思うのですが、我慢して聞いてください。イサクは納得していません。彼は非常に疑問に思っています。これはエサウなのか、そうでないのか。彼はヤコブを近づけて触れ、毛に触り、匂いを嗅ぎますが、聞いた声とは矛盾しています。イサクは、自分の感覚と聞いた言葉とが矛盾しているのに、自分の感覚を信じて決断を下したのです。これで、私が何を語ろうとしているのかわかりますか？聞いていた御言葉に反しているのに、何度私たちは、自分の感じた感覚で決断してしまっているのでしょうか？よく言われていることですが、「気持ちよく感じるものが間違っているわけがない。」「気楽にいこうよ。」私たちは今、感情で生きているのですか？「私は何も感じない。」つまり、私はただ...私たちは、感情で生きている。私たちは、感情に基づいて人生の決断をしています。何がそんなに大変かという



と、イサクを、責めないように注意しなくてはなりません、なぜなら、私たちはまったく同じことをしているからです。何が難しくさせたかという、彼が聞いた声とは、正反対だったからです。神は何度、その聖霊の静かな小さな声で、私たちに語りかけてくださっているのでしょうか。私たちは、羊が羊飼いの声を知るように、主の声を聞き、それが主であることを知っているのです。主が私に語りかけているのです。聞こえる声ではありません。その必要はありません。主は、主の御言葉を通して語られます。それはキリストの御言葉であり、神の御言葉です。それが一番の方法です。ちなみに「自分が神の御心に沿っているかどうかを知りたい」という人のために。あなたは知らなければなりません。すぐにこのことを見ますが、あなたが、神の御心に従いたいと思っている以上に、神がそのことを望んでおられるのです。神が天国であなたとチェスゲームをしていて、あなたが理解できないようにされているとは、決して想像しないでください。想像できますか？「早くそこへ降りていきなさい。JD が、わたしの思いをほとんど理解している。混乱させなさい。」違います。私たちが神の御心に沿うことを望む以上に、神はご自身の御心に私たちが沿うことを望まれているのです。そして、私たちが御心に適うように、常に環境を整えてくださいます。神は、それを出来ないということはお出来になりません。正しい文体ではないことはわかっていますが、神は私たちを、悪をもって誘惑することはお出来になりません。神は、常に私たちの人生を演出し、私たちの人生の状況を調和させて、私たちが、神の御心に沿うようにしてくださいます。それが神のご性質であり、ご性格なのです。しかし、私たちの問題は、それを、感情に基づいて行ってしまうことです。感情に基づいてしまうとき、特にその感情が神の御言葉に反しているとき、私たちは大きく失敗します。「ええ、神の御言葉がそう言っているのは知っています、聖書がそう言っているのも知っています。でも...」神の御言葉が語っていることを知っていても、私たちは逆らってしまいます。そして、感情に従ってしまうのです。これは聖霊かもしれませぬ。そうであることを願っています。でなければ主よ、振り落としてください。「神は、私が幸せになることを望まれているのですよね？」というのを聞いたり、あるいは、自分でも言ったことがありますか？「はい」でもあり「いいえ」でもあります。今、変な目で見られてますよね、水を差しますね、牧師さん、って感じですね。はい、神は、あなたが幸せになることを望んでおられますが、そこに至る方法は、あなたが考えているような方法ではありません。神はあなたに、「聖く」あることを望んでおられます「それでは、神は、私が幸せになることは望んでいないのですか？」神は、あなたが聖なる者であることを望んでおられます。なぜなら、主が聖くあられるようにあなたが聖くなる時のみ、あなたは幸せになれるからです。聖なる人生とは、幸せな人生です。これはどうでしょう？ 聖くない人生は、幸せでない人生です。深い意味がありますよね。でも、考えてみてください。聖い - 全てが ( Holy- whole) 半分でもなく、四分の三でもない。あなたは完全に、聖く、満たされる。そしてそのとき、あなたは幸せなのです。幸せとは、聖さの結果です。聖なるクリスチャンを見せれば、幸せなクリスチャンを見せてあげます。ところで、happy (幸せ) という言葉の語源を知っていますか？ Happenstance (偶然の出来事) です。つまり、「私は幸せだ」と言うとき、それは、あなたが幸せになる理由があるということなのでしょう。あなたの幸せは、あなたの状況を前提としているからです。ところで、あなたはどうですか？ もし、私の幸せが人生の状況に左右されるとしたら、良い日であっても、一日に1分半くらいしか、幸せを感じないと思います。しかし、聖さは私の人生の状況に左右されるものではありません。何が起こっても、私は聖なる存在でいられます。私は、人生の状況に関わらず、その聖さのために幸せでいることができます。それは聖さと幸せだけでなく、平和と喜びでもあるのです。喜びと幸せの違いは、主の喜びは、あなたの人生で何が起きているかを前提としてはいないとい

うことです。あなたは、人生の試練の中で、主の喜びを持つことができるのです。ついでに言えば、これに関して、敵に自由にさせないでください。試練の中にいて、いわば嵐の中にいるので、私は神の御心から外れているに違いないと、間違って認識してしまうのです。敵はすぐそばにいて、ポップコーンを作って、あなたにライブ配信を見せてくれます。レンタルもしてくれるし、代金も払ってくれます。

「私は人生の試練の中にいる。神の御心から外れているに違いない。」それは弟子たちに聞いてください。舟に乗せられて、ガリラヤ湖に出たときの話を思い出してください。イエスは、「向こう岸で会おう」と言われました。イエスは危険だと知りながら、嵐の真っ只中に弟子たちを送り込むのです。しかし、彼らは神の御心のど真ん中にいるのです。イエスが知っておられなかったと思いますか？「本当に申し訳ない!」「知っていたら、あの嵐の中に送り込まなかったのに。」いや、イエスは知っておられたのです。そして、この記録にはとても興味深い詳細があります。イエスはずっと彼らを見ておられました。本筋から大きく外れてしまったので、進行中の説教に戻しましょう。24 節だったと思います。イサクはまだ、エサウなのかヤコブなのかを疑っています。

24 本当におまえは、わが子エサウだね」と言った。するとヤコブは答えた。「そうです。」

25 そこでイサクは言った。「私のところに持って来なさい。わが子の獲物を食べたい。そうして私自ら、おまえを祝福しよう。」そこでヤコブが持って来ると、イサクはそれを食べた。またぶどう酒を持って来ると、それも飲んだ。

26 父イサクはヤコブに、「近寄って私に口づけしてくれ、わが子よ」と言ったので、これは中東での習慣的なことです。

27 ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクはヤコブの衣の香りを嗅ぎ、彼を祝福して言った。

「ああ、わが子の香り。主が祝福された野の香りのようだ。」

28 神がおまえに天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を与えてくださるよう。

29 諸国の民がおまえに仕え、もろもろの国民がおまえを伏し拝むように。おまえは兄弟たちの主となり、おまえの母の子がおまえを伏し拝むように。おまえを呪う者がのろわれ、おまえを祝福する者が祝福されるように。

30 イサクがヤコブを祝福し終わり、ヤコブが父イサクの前から出て行くとすぐに、兄のエサウが猟から戻って来た。

31 彼もまた、おいしい料理を作って、父のところに持って来た。そして父に言った。『お父さん。起きて、息子の獲物を召し上がってください。あなた自ら、私を祝福してくださるために。』

32 父イサクは彼に言った。『だれだね、おまえは。』彼は言った…

(「お父さん、それはとても傷つきます、どういうことですか?」)

…『私はあなたの子、(注目してください) 長男のエサウです。』

そして、33 節に注目していただきたいのですが、ここには「なぜイサクが信仰の殿堂に含まれているのか」という疑問に対する答えがあるからです。

33 イサクは激しく身震いして言った。『では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持って来たのは。おまえが来る前に、私はみな食べてしまい、彼を祝福してしまった。彼は必ず祝福されるだろう。』

私は、あなたが神の御言葉に触れる時間の中で、この記録の続きを読むことをお勧めします。とにかくパワフル、力強いのです。ここで重要なのは、イサクが激しく身震いしはじめたのは、自分の計画が失敗し

たことを悟ったからだということです。よくお聞きください。彼は、ヤコブが長子の権利を持つ者であることを知っていました。しかし、彼はエサウ祝福するために、エサウを行かせることでそれを阻止しようとした。そして、自分の計画が失敗しただけでなく、神の計画が実現したことを悟ったのです。そして、最後には、イサクが阻止しようとしたにも関わらず、最終決定権を握っておられたのは神であったのです。

ヘブル人への手紙 11 章 20 節に入ります。ここでは、こう語られています。イサクは信仰によって、黙って従い、信仰によって、降伏し、信仰によって、神の御心に従い、両方を祝福することを受け入れました。繰り返しますが、これが彼が非常に恐れた理由でもあります。チャールズ・スポルジョンがこのように言っていました。

「イサクは、エサウを祝福したいと思ったことが間違っていたと気づくと、それに固執しません。彼はエサウにできるだけの祝福を与えますが、自分のしたことを撤回しようとは一瞬たりとも考えません。彼は神の御手が入っていたと感じています。さらに、彼は息子（エサウ）にこう言います。『彼（ヤコブ）は祝福されている。そう、そして祝福されるであろう。』」ここで何が起きているのでしょうか？彼はヤコブを祝福することを信仰によって降伏しました。エサウは、預言によれば、やはり祝福を受けることになりますが、長子の権利を受けるのは彼ではありません。それでは、このことから、この話が現代の私たちにどのように当てはまるのかという問題へと戻ってきます。特に、この世界的な危機については、もしあなたが私と同じように考えているのであれば、日に日に悪化し、邪悪なものが増えているように思えてなりません。神が最終決定権を握っておられます。単純化しすぎていると思われるかもしれませんが、どんな筋書きも、どんな企みも、どんな計画も、神が人間のために持っておられる計画に勝ることはありません。ええ、主を讃えましょう。そうですね？ 一拍手ー

しかし、もしあなたがここにいたとしても、あるいはオンラインで預言アップデートを見ていなかったとしても、私は本当にお勧めしたいのです。というのは、おもに詩篇 37 篇を見て話しましたが、詩篇 73 篇も含まれているからです。37、73 は覚えておいて損はないです。どちらの詩篇にも共通しているのは、「悪人やその邪悪な企てのために、気が立ったり、悩んだり、熱くなったり、怒ったりしてはいけない」ということを語っています。この人は、今日のニュースフィードを読んでいるのかと思うほどです。ですよ？正しいですか？つまり、そんなことをして何になるんだ？ ということです。人間に行われている悪を見てください。邪悪なもの、邪悪な企て。それは邪悪で、徹底的に邪悪なものです。そして今、私たちは怒って、興奮して、テレビに向かって叫びます。ちなみに、私は悔い改めました。私は今、勝利の中を歩いている、そんな感じです。とにかく、神は私の心を知っておられます。しかし、このような邪悪な計画を実行する悪人のために、怒っても何の意味もありません。あなたは知らないのですか。実は、詩篇 37 篇です。イスラエルの美しい詩編作者であるダビデは、こう言っています。

「あなたは取り乱している。神が何をしておられるかを知っていますか？」笑っておられます。彼らを笑っておられます。「これは... (笑)、いいや、わたしがすることを、あなたは見るでしょう。それどころか、わたしが最終決定権を握っているのです。心配してはいけない。」

詩篇 73 篇はその逆で、悪が栄え、悪人が栄えているのに、神は何もされてないように見えるため、詩篇の作者は恐ろしく信仰の危機に陥っています。そして、ついに、主の聖所に入って、彼らの最期を見たとき、怒りから同情に変わったようですが、それは当然のことです。というのも、ダビデは詩篇 37 篇で、「最後には、彼らを探しても見つからない、なぜなら彼らは断ち切られるから」と言っているのです。申

し訳ないですが、待ちきれません。彼らは当然の報いを受けるでしょう。彼らが逃れられると思いますか？「はっはっは…」神は笑っておられます。「いいえ、逃れられません。無理です。彼らはこのままでは済まない、最終的にはわたしが判断します。すべてがわたしの計画通りに完璧に進んでいます。」

つまり、これらの計画はリベカを評価しなければなりませんね？ かなり賢いですよね。そして、それがイサクの決め手となって、実際に成功したのです。ですよね。彼は「お前はヤコブのように聞こえる、ここに来なさい」と言いました。そして、毛を触っています。うまくいきました。ああ、私たちの計画がうまくいかないことを神に願います。なぜなら、その時私たちは逃げきったと思うからです。逃げきれません。この最後の時、ヨハネが言うように”最後の時”に、人間にこの悪を行っている者たちには、最終的には神が最終決定権を握っておられます。どうすれば、皮肉にならないように言えるでしょうか？ ちょっと時間を下さい。それを見ることを願います。その理由を説明しましょう。皆さんの中には、私を見て「頼みます、説明すべきです」と思っている人もいるでしょう。「それはどういうことですか？」と。私たちはすべての膝がひざまづき、すべての舌がイエス・キリストは主であると告白するようになると言われているのです。私はその時、その場にいたいと思っています。なぜなら、それを見たいからです。今、私が見ている人たちの中には、その醜い口で私の救い主を冒涇している人たちがいるからです。彼らの舌は、イエスを冒涇しているのです。彼らが口で告白するときに立ち会いたいのです。ところで、それは救いのためではなく、彼らがそうするときは永遠の天罰のためです。なぜなら、それが終わりだからです。このように終わります。そして、さらに一歩進んで、ここで曲がり角を曲がることになります。

ちなみに、詩篇の著者と詩篇 73 篇を公平を期して、それが私の一日の活力になっていることを知っています。神が最終決定権を握っておられることを知っています。私には辛くて…。主よ、私はどうすればいいのですか？ もう外に出て人に会うのがつらいです。とても心が痛みます。特に子どもたちに。私は彼らの目の中にある恐怖を見て、もう、以前とは違うんだと思い、胸が張り裂けそうになります。彼らはイエスを必要としています。そして、何が起こるか分かっていません。それは私の心を締め付けます。そしてもちろん、その原因となっている人たちにも私の心は向いています。そして、あなたと同じように、私は怒ります。その時、主はマタイの福音書 5 章を思い出させてくださいました。そこには、彼らのために祈ることが書かれています。祈っている相手に長く怒り続けることはできません。なぜ祈るように言われているかという、それによって相手に対する心が変わるからです。なぜなら、自分の敵や、悪口を言う者、自分を卑下する者のために祈り始めると、彼らに対する心が変わるからです。アップデートで、またしても、私の個人的なことを共有しましたが、テレビに向かって叫ぶことです。テレビ画面の中のその人を見てみると、名前は言わないけど、その人が誰だか知っていますよね、何を言いたいかわかりますよね。そして、あなたはただ…ただ…言うまでもなく…怒っていると主が「何をしているんだ？」私は何を言っているのかわからないし、聞く必要もないです。ミュートにしています。私はもうテレビのミュートを解除することはありません。そこで主が、「では、彼のために祈ってみてはどうだい？」ええ、彼のために祈ります。分かりました。そうですね？ わかってくれますか？ しかし、違います。「ちょっと待ってください。わたしは彼らを愛し、彼らのために死にました。」それだけで、すべての状況が一変します。イエスが死んでくださった人であり、イエスを必要としている人として私がみる時、私は神が誰かをその人の人生に送ってくださるようにと祈り始めます。彼らがイエスの救いの知識を得るようにと。なぜなら、彼らにはイエスが必要だからです。言っておきますが、最初は少しデコボコした感じで始まるかもしれません。祈りが少し荒いのです。認めましょう。あなたが敵のために祈り、そのような人々のために



祈るとき、「神よ、……」そして、すぐに「神よ、彼らの救いのために祈ります」と言うようになります。そして今、突然、神が彼らを祝福し、彼らを救うことに関心を持つのです。そして、それは彼らの見方をすべて変えます。では、お付き合いありがとうございます。ここにある類型論で締めくくりたいと思います。私が長年にわたって魅了されてきたことの一つに、聖書の中の類型論があります。類型論とは、誰かや何かがキリストの型であり、イエス・キリストという人物を指し示していることを意味し、これはイサクの場合です。それでは、残りの時間で、類型論をご紹介しますと思います。ご希望の方は、ウェブサイトから PDF をダウンロードしていただけます。

イサクは、年老いた不妊の胎内から生まれた奇跡の子でした。イエスは、若い処女の胎内から生まれた奇跡の子でした。

イサク：父アブラハムは、愛するひとり息子を与えました。イエスと同じです。

父なる神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛されました。それは、この方を信じる者が滅びることなく、永遠のいのちを持つためです。(ヨハネ 3:16 参照)

イサク：非常に詳細に書かれています。彼は「捧げられる」、翻訳すると「引き上げられる」

イエスは、「私は地上から引き上げられる」と言われました。(ヨハネ 12:32 参照)

イサク：イサクと共に、二人の男が登っていきました。(創世記 22:3 参照)

イエス：イエスと共に、2 人の罪人が十字架にかけられました。(ルカ 23:32 参照)

先週、この話をしました。今週も繰り返になりますが、日曜学校みんなのフランネルグラフを台無しにしてしまいましたね。しかし、当時のイサクは 33 歳でした。イエスが十字架にかけられたのは 33 歳の時でした。イサクは、「あの場所に行った」と書かれており、とても具体的です。慣用句で、正確な場所という意味です。イエスは、カルバリーと呼ばれる場所に来られたと書かれています。先週もお話しましたが、アブラハムがひとり子イサクを連れて行ったとき、こんにち、カルバリーとして知られている場所に連れて行ったのです。その場所は全く同じ場所でした。

イサクは、父アブラハムと 3 日間一緒に歩いたと書かれています。(創世記 22:4 参照) イエスは、公の宣教の働きの中で、3 年間、御父と共に歩きました。

イサク：イサクが復活すると信じていたため、従者たちに、「私たちは行って戻ってくる」と言われました。(創世記 22:5 参照)

イエスは、復活を信じる従者たちに、「主は再び戻って来る」と言われました。(ヨハネ 14:3 参照)

父アブラハム...これらの細部すべてには、理由があるのです。

父アブラハムは、先週この箇所を読みましたが、イサクを薪の上に載せたと書かれています。(創世記 22:9 参照)

イサクはささげ物のための薪を運びました。(創世記 22:6 参照)

御父がイエスに罪の呪いを負わせ、木の十字架を背負わせたように。木(十字架)にかけられた者はみな、のろわれている。」(ガラテヤ 3:13 参照)

アブラハムは、自分の息子を、罪のためのささげ物ではなく、救いのためではなく、聖別のための全焼のささげ物として捧げるために、手に火を持っていました。(創世記 22:6 参照)

彼は息子をささげ物として捧げるのです。イエスも同じように、神がご自分の怒りを手にして、その怒りを御子にぶつけ、完全な犠牲とされました。この件に関して 1 つだけ補足すると、非常に重要なことなので、今から言うことを聞いてください。これも敵の嘘であり、悲しいことに、敵は逃げ切っているの

す。神はご自身の憤り、怒りのすべてを、イエスにぶつけられたのです。この意味がわかりますか？ 主はあなたに怒っておられません。あなたには何の怒りもありません。パウロはこうに言っています。  
**ローマ人への手紙 8章1節**に記されています。

**「こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められること（怒り、罪悪感）は決してありません。」**

なぜですか？ なぜなら、イエスはあなたの代わりに、私の代わりに、ご自身でそれを引き受けてくださったからです。だから、次に敵があなたの元に来るときは敵はやってきますよ。今日、あなたが教会に来る前に、彼はすでにそれをしていたことを約束します。

「ああ、神はあなたを愛していますが、今のあなたをあまり好きではないと思いますよ。」－「ああ…、わかっています。」

「あなたのことをあまり快く思っていないようです。」－「ああ…」それは嘘です。それは嘘の父からの嘘です。嘘を信じてはいけません。神はあなたに怒ってはおられません。

「神はあなたを愛している」と言いますよね。「ああ知っています、知ってるよ。はいはい、そうです、そうですね。神は愛です」と。でも、こうやって言えば、もっとパンチが効いてくるのは悲しくないですか？「神はあなたのことが好きです。」－「…神が?!」「神は私のことが好きなの？」そうです。

「私を怒っていない？」怒っていません。「本当に？やった！」つまり、神が私を愛していることは知っているのですが… 妻が夫に「あなたを愛さなければならいけど、今のあなたは好きじゃないわ！」と言うのと同じようなものですね。ああ、すみません。結婚生活に余計なことを言ってしまったかもしれません。私自身のことを言っているのであって、妻がこう言っていました。「あなたを愛しているけど、今はあなたが好きじゃないわ」いいえ、主はあなたが好きです。あなたのことが好きなのです。怒りはありません。また別の詳細です。

イサク：ナイフがあり、彼を刺し殺すために、実際に剣がとられたのです。（創世記 22:10 参照）

もちろん、神が止められました。

イエス：死を確認するためにイエスは剣で刺されました。（ヨハネ 19:24 参照）

イサク：アブラハムはこう言います…先週も話しましたが、元のキングジェームズ訳で 1900 年版を見たいのですが、そこに書かれています。他の翻訳では書かれていません。しかし、イサクが父にこう尋ねると、「運んできた薪はあって、火もあります。ささげ物はどこにあるのですか？」アブラハムが預言的に彼に答えたのは、「神ご自身がご自身を犠牲として提供してくださるのです。」（創世記 22:8 参照）

それは、「神は私たちと共におられる」というイエス・キリストを指し示す預言でした。神が人となり、自らを犠牲として与えられること、そのことを指しているのです。イサクは、4 歳の幼児ではなく、33 歳だったことを理解すると、それは、様相を変えてしまわないでしょうか？ この人は、33 歳の男であり、従順に、自らの死のために、進んで縛られるのです。イエスが従順に、自ら進んで死を受け入れられたように。

イサク：主の御使いが天から呼びます。「アブラハム、アブラハム！」それはクリストファニー（顕現）、つまり、ベツレヘム以前のイエス・キリストの現れです。天から呼ばれたのはイエスです。

イサク：犠牲への従順さのためにすべての国が祝福されます。

イエスは同じように、イエスのおかげですべての人が救われます。従順さは犠牲に勝るからです。

イサク：これは興味深い内容です。これも一読しただけではわかりません。アブラハムが戻ってきた時、

彼はいません。(参照 創世記 22：19)

イエスも同じですが、彼らが戻ってきた時には墓の中にはおられませんでした。(ルカ 24:2 参照)

これが最後です。

イサク：これらのことの後、アブラハムは息子のためにリベカという花嫁を探します。

(創世記 24 参照)

十字架の後の、復活の際には、御子のための花嫁、教会を見ます。類型化されているのがわかりますか？ 主の側から見た花嫁。最後にもう一つ。まだ、一度も”最後に”とは言っていないですね。二回言いますから。二度は言いません。一度だけ使います。考えてみてください。イエスは最後のアダム、第二のアダムであることは知っていますよね。なぜなら、最初のアダムによって罪がこの世に入り、最後のアダムであるイエスによって罪が償われたからです。そうですね？ だから、イエスは第二の、そして最後のアダムと呼ばれています。さて、アダムについて、私たちは何を知っているのでしょうか？ 神は彼を深い眠りにつかせ、彼のために花嫁を創るために、彼の脇腹からあばら骨を取り出しました。最後のアダムであるイエスまで早送りします。イエスが脇腹を刺されたとき、血と水という、生まれたときにあった 2 つの要素が流れ出しました。それは、アダムの脇腹からエバが取られたように、主の脇腹から花嫁である教会が誕生したことです。もう一つの類型です、聞いてください。いつも来られている方にはわかると思いますが、これはすべてのタイプのほんの一部です。つまり、「神の御言葉は神の御言葉であり、絶対に間違いない」と私が知っている理由の一つは、人がそれを考え出すことができないからです。想像できますか？ 不可能です。これは神の御言葉であり、御言葉の神です。お立ちください。賛美チームに登場してもらいます。あなたが今日、自分の手で問題を解決しようとしていることが何であれ、そのことについてイサクに尋ねてみてはいかがでしょうか。神が最終決定権を握っておられます。あまり長く待つ必要もないと思います。長い時間がかかっているように見えますが、長くはありません、今に分かるでしょう。祈りましょう。

天のお父さま。あなたの御言葉に感謝します。イサクのことを感謝します。主よ、あなたが促し、この世代の私たちのために書いたヘブル人の手紙の著者に感謝します。あなたの御言葉は、主よ、実に生きていて、活発で、どんな両刃の剣よりも鋭く、関節と骨髄、たましいと霊の間を分けるものです。そして、今日の私たちの時間の中で、あなたの御言葉の中で、私たちが聖霊に委ね、主よ、あなただけがお出来になるように、私たちの心の奥底に自由にアクセスしていただくことを祈ります。私たちがあなたの声を聞くこと、あなたを知ること、あなたを愛すること、あなたに仕えることを妨げているものを、外科的に切り取り、取り除いてください。主よ、私たちの心や生活の中に住み着いているもので、私たちとあなたとの関係を妨げていて、そこにはふさわしくないものを取り除いてください。主よ、あなたの御言葉に感謝します。イエスの御名において。アーメン。

以下類型論表

イサク	イエス
年老いた不妊の胎から生まれた奇跡の子	若い処女の胎から生まれた奇跡の子
父アブラハムは、愛するひとり子を与える。	父なる神は、世を愛され、そのひとり子を与えられた。
イサクは捧げられることになる。翻訳すると「上げられる」	イエスは“私は地上から引き上げられる”と言われた。
イサクに付き添った二人の男がいた。	イエスと同時に十字架にかけられた二人の男がいた。
この時、イサクは33歳だった。	イエスが十字架にかけられたのは33歳の時だった。
彼らは“その場所”に行った。その場所とは、正確な場所を意味する熟語	“彼らはカルバリーと呼ばれる”その場所“に来た。”
イサクは父アブラハムと3日間歩いた。	イエスは宣教の3年間、御父と共に歩まれた。
復活を信じていたので“私たちは行って、また戻って来る”と言った。	イエスは復活を信じて従う人に、“再び戻って来る”と言われた。
父アブラハムはイサクに、犠牲に使う木を背負わせた。	父なる神は、木の十字架を背負ったイエスに、罪の呪いを負わせた。
アブラハムは自分の息子を生け贄として焼くため、手に火を持っていた。	神は御手で憤りを受け止め、その憤りを生け贄である御子に注いだ。
イサクを殺すため、ナイフ(剣)が持ち出された。	死んだことを確認するために、イエスは剣で刺された。
アブラハムは神ご自身がささげ物の子羊を備えて下と言う。	御子なる神は、ご自身をささげ物の子羊として備えられる。
イサクは自分の死に従順に、進んで縛られた。	イエスはご自身の死に従順に、進んで縛られた。
主の御使いが天から呼ぶ。	この主の御使いとは、天から呼びかけられるイエスご自身。
犠牲への従順さゆえ、すべての国が祝福される。	イエスのゆえ、すべての人は救われる。従順は犠牲に勝る。
アブラハムが戻って来たとき、イサクはいなかった。	人々が戻って来た時、イエスは墓の中におられなかった。
これらの後、アブラハムは自分の息子のための花嫁(リベカ)を見る。	十字架刑の後、御子のための花嫁(教会)を見る。

-----  
 メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7